

A 分け方を変えると

基礎～標準 1 | 解答・解説

記述は、表現が違っていても必要な内容と全ての条件を満たせば正答です。別解・許容欄は内容や言い換えの基準を示しています。

問1 話題

答え：イ

解説 工作室や筆箱は分類の考え方を説明する例である。文章全体では、分類の目的と基準の関係を考えている。

問2 中心文

答え：ア

解説 最初の文が、分類の基準と目的の関係を確かめるという方針を述べる。二番目はその性質、三番目は注意点である。

問3 具体例と主張

答え：エ

解説 ②は働き、③は材料という異なる基準で同じ物を見る。どちらかが常に優れているのではなく、目的との関係が重要である。

問4 キーワード 6字

答え：注目する特徴

解説 ③の「目的が違うために」に続く内容から、変わるものを抜き出す。「も変わる」は含めない。

A 分け方を変えると

基礎～標準 1 | 解答・解説 | つづき

問5 部分の要点 解答例 33字

解答例：分類しにくい物が出たら、無理に分けず、基準を見直すきっかけにする。

解説 ④は分類の便利さを認めたうえで、一か所に収まりにくい場合にどうするかを述べる。

別解・許容 複数の働きを持つ物を例にしてよい。無理に一つに押し込めず、基準を考え直す関係を保つ。

問6 具体例の位置付け

答え：ウ

解説 ⑤は使う回数で分ける一例にすぎない。全体の要旨では、その例を含められる「目的と基準」の関係までまとめる。

問7 不十分な要旨を直す 解答例 44字

解答例：物が入る仲間は初めから一つに決まるのではなく、分類する目的や注目する特徴によって変わる。

解説 ①の性質を、②③⑤の異なる分け方で確かめる。物自体が変わるのではなく、見る基準が変わる点を押さえる。

別解・許容 同じ物でも別の仲間に入る、と表してよい。分類の基準や目的によって変わることを示す。

問8 要旨を書く 解答例 57字

解答例：物を分類するときは、目的に合う基準を確かめ、一つの分け方を固定的に捉えず、収まりにくい物があれば基準を見直したい。

解説 ①の中心的な考えに、④の見直しを結び付ける。道具の名前を並べる必要はない。

別解・許容 基準が変わると別の仲間に入る、と具体的に表してもよい。収まりにくい場合の見直しも含める。

読み取りのポイント

本文の言葉を短くするだけでなく、例をまとめられる広さの言葉を選ぶ。「工作室」から「分類」へ視点を広げる。

B 形が変わっても

基礎～標準 2 | 解答・解説

問1 文章全体の問い

答え：ウ

解説 のぼりを入口に、③④で伝統一般を受け継ぐ考え方に広げている。費用や人数を増やす方法が中心ではない。

問2 対比

答え：イ

解説 布の重さを守ることは道具の特徴の維持、集まって祝う機会を守ることは営みの継続である。

問3 中心的な段落

答え：エ

解説 ③に「受け継ぐとは」と中心的な考えがあり、一人で決めないという注意点も示す。④⑤はその進め方と例である。

問4 キーワード 15字

答え：その営みが人々にとって持つ意味

解説 ③の「確かめ」の対象をそのまま抜き出す。目に見える形との対比を手がかりにする。

問5 具体例を一般化する 解答例 37字

解答例：受け継ぎたい意味に関わる部分を残しながら、今も続けられるように形を変える。

解説 色や模様に意味があり、重さには特別な意味がないという例を、一般的な言葉に置き換える。
別解・許容 変えられる部分を暮らしに合わせて変える、という表現もよい。大切な意味を残す内容は必要。

B 形が変わっても

基礎～標準 2 | 解答・解説 | つづき

問6 中心と補足

答え：ウ

解説 筆者の中心的な考えであり、複数の例をまとめられる。アとイは具体例、エは本文で主に述べられていない内容である。

問7 条件を落とさない 解答例 45字

解答例：関わる人たちが話し合っ、その営みの意味を確かめ、大切にしてい残す部分を見分けるという内容。

解説 ③の意味の確認・一人で決めない注意と、④の語り合う方法を合わせる。便利さだけでは何を守るかが決まらない。

別解・許容 長く関わった人の思いを聞いて意味を共有する、という説明もよい。意味の確認と複数の人の関わりを含める。

問8 要旨を書く 解答例 68字

解答例：伝統は形を固定するだけでなく、関わる人々との話し合いで受け継ぐ意味を確かめ、大切な部分を残しつつ、今の暮らしでも続けられる形を探したい。

解説 ③の主張を中心に、④の話し合いの進め方を含める。⑤ののぼりだけの説明や、便利なら自由に変えてよいというまとめは合わない。

別解・許容 人々と大切にすることを共有し、今に合う形へ工夫する、という表現を認める。指定語と字数は守る。

読み取りのポイント

主張は③段落にある。最後の例だけを写さず、意味を確かめることと人々の話し合いを含める。

C 記録にないもの

発展・応用 | 解答・解説

問1 具体例を含む話題

答え：イ

解説 写真と新聞の両方を「記録」と捉えると、残された内容の受け止め方が文章全体の話題だと分かる。

問2 言い換え

答え：ア

解説 祭りの日・向き・笑顔などは選ばれた一部であり、普段や町の全員に広げて判断できないことを述べている。

問3 部分の役割

答え：エ

解説 ④は③の背景の確認に加え、別の記録で視点を広げる。食い違いも理由を調べる手がかりなので、共通点だけに絞らない。

問4 共通点をまとめる 解答例 39字

解答例：残す内容を選んで記録しているため、そこに示されないことも実際にはあるという点。

解説 写真は場所などを選び、新聞は相手や出来事を選ぶ。記録されないことと、起きなかったことは同じではない。

別解・許容 記録だけでは全体が分からない、と表してもよい。内容を選んで残すことと、見えない面があることをつなぐ。

C 記録にないもの

発展・応用 | 解答・解説 | つづき

問5 重要な言葉 解答例 28字

解答例：記録に残す内容が選ばれたため、そこに含まれなかったこと。

解説 ⑤の最後の文と⑥を結ぶ。写真の余白や、日記の空欄という物理的な意味ではない。

別解・許容 残されなかった出来事や人々の様子、と具体化してもよい。記録の空欄や、何も起きなかった時間とは区別する。

問6 不十分な要旨の診断

答え：ウ

解説 ⑥は限界を踏まえて結び付けると述べる。元の記録を捨て、別の記録を無条件で信じる意味ではない。

問7 段落を結ぶ 解答例 55字

解答例：背景が分かっても一つの記録には選ばれなかった面が残り、別の記録と合わせることで見えなかった面を考えられるから。

解説 ③は記録の示せる範囲を知る読み方で、④はその範囲の外を補う読み方である。背景を知るだけで情報が増えるとは限らない。

別解・許容 異なる立場・時刻の記録で不足を補う、と表してもよい。背景を調べても一つの記録の限界は残ることが必要。

問8 要旨を書く 解答例 76字

解答例：記録は選ばれた一部を残すものなので、作られた背景や示せる範囲の限界を確かめ、含まれない面にも注意しながらほかの記録と結び付け、物事をより豊かに捉えたい。

解説 ③の背景、④の複数記録、⑤の含まれない内容、⑥の価値をまとめる。最後の段落だけを写すと背景の確認が落ちやすい。

別解・許容 食い違いの理由を考える読み方を含めてもよい。背景と限界を踏まえ、複数の記録を結ぶ考えを保つ。

D 聞くことから始まる

定期テスト対策 | 解答・解説 | 100点満点

問6～8は内容点の合計から、字数範囲外なら1点減点します。問8は指定語が一語でも欠けていれば、語数にかかわらずさらに1点減点します。各問の下限は0点です。

問1 話題〔10点〕

答え：ウ

解説 昼休みの例を含め、意見が違ふときの聞き方・伝え方を考えている。説明の短さや教室のきまりだけが主題ではない。

問2 具体例の役割〔10点〕

答え：イ

解説 ②で言葉からの思い込みを示し、③で自分の言葉で返して理解を確かめる方法を示す。どちらの願いを優先するかは決めていない。

問3 キーワードの関係〔10点〕

答え：ア

解説 ④の最初の文が区別を示す。相手を理解しても意見が異なる場合がある。

問4 要旨と要約〔10点〕

答え：エ

解説 目的に応じて本文の一部を短くするのは要約の課題である。全体の要旨では、例から離れて筆者の中心的な考えをまとめる。

問5 中心と補足〔10点〕

答え：ウ

解説 具体的な教室の状況は、話し合い一般の考えに置き換えられる。ほかの三つは中心的な考えの要素である。

D 聞くことから始まる

定期テスト対策 | 解答・解説 | 100点満点 | つづき

問6 不足を補う〔15点〕 解答例 38字

解答例：自分の困りごとや大切にしていることも伝え、互いの前提のずれを確かめ合うこと。

解説 ⑤は、相手に合わせて黙ることを否定し、双方が伝え合う必要を述べる。

別解・許容 自分の願いも言葉にし、互いに何を大事にするかを知る、という表現もよい。相手に従う内容にはしない。

採点の目安 ①自分の困りごと・大切なことも伝える8点、②互いの前提を確かめる7点。

問7 誤りを直す〔15点〕 解答例 52字

解答例：互いに大切にしていることを伝えて理解を確かめ合えば、意見の違いが残っていても、一緒に考える土台ができる。

解説 ④の「同意とは違う」と⑤の「違いを残したままでも」を合わせる。同じ意見になることを条件にしない。

別解・許容 完全に同意しなくても共に案を考えられる、と表してもよい。双方の願いや考えを理解する条件を残す。

採点の目安 ①互いの願い・前提を理解する8点、②違いを残して一緒に考えられる7点。

問8 要旨を書く〔20点〕 解答例 71字

解答例：意見が違う相手とは、話を自分の言葉で確かめ、自分の大切にすることも伝えて互いの前提を理解し、違いを残しても一緒に考える土台を作ることが大切だ。

解説 ①③の聞き直しに、④⑤の違いと相互理解を加える。相手に従うこと、全員が同意することとは区別する。

別解・許容 互いの願いを理解する、と表してもよい。聞くだけでなく自分も伝えること、違いがあっても共に考えることを含める。

採点の目安 ①相手の考えを自分がどう理解したか確かめる6点、②自分も伝えて互いの前提を知る6点、③違いを残して一緒に考える8点。

読み取りのポイント

聞くことだけでなく、自分の考えも伝える。理解することと同意することを区別してまとめる。